



「生活習慣病改善プログラム」実施施設紹介④ 広島県呉市 日下医院

近年、生活習慣病改善の取り組みは、極めて現実的になってきています。呉市では、減塩、低カロリー食をおいしく食べられることを目指した社会的活動が大きな注目を集めています。本プログラムはその活動にも重要な役割を果たしています。

日下医院
院長 日下美穂 先生



——「こだわりのヘルシーグルメ ダイエット レストラン in 呉」という、おもしろい企画を推進されているそうですね？

生活習慣病に社会的関心が高まっている現在、高血圧専門医として社会に役立つことは何かを考えていて、2年ほど前から日本高血圧学会や日本高血圧協会、呉市医師会循環器病研究会を母体にこの企画を進めています。栄養士やレストランにも参加を呼びかけ、「医学的根拠に基づいた、減塩、低カロリー食を、町のレストランでおいしく食べる」ことによって、「生活習慣病を予防し、食の意識改革を図る」ことを目指しています。現在は地域の39店が協力してくれていて、予想以上の話題になっています。実際には、塩分は2~3gで、400~600kcal、脂肪は少なくすることにしていますが、食べた人が減塩、低カロリーでもこんなにおいしいと気づくような料理になっています。

——その活動の中で、本プログラムに着目されたのですよね？

この活動を通じて、患者さんや市民の人達の減塩の意識はどう変わったか、さらに、血圧値や体重は実際に変わったのかといった成果を知りたいと思いました。その手段として、生活習慣病改善プログラムはうってつけでした。すなわち、本プログラムは、薬剤投与の時期、種類、増減など治療法を問わない、保険診療内のできる、過去のデータを入力できるといった特徴があるので、私のニーズに合ったデータベースになるのです。

——実際に、本プログラムをどう使われていますか？

対象患者さんには「生活習慣アンケート」を取りますが、そこに独自の「以前と比べて、塩分をひかえるようになりましたか？」という問いを加えました。また、「データ入力補助票」の他に、「薬剤チェック票」も

独自に作成。それらで得られた、患者さんの年齢、性別、検査値、服用薬剤といったデータを検査技師と看護師が入力します。そこに私が危険因子を記入し、全体確認をした後に、検査技師と事務スタッフが入力するという連携作業で遂行しています。

——本プログラムをどう評価されていますか？

自分でデータベースを構築するのは大変ですが、本プログラムをデータベースとして使えば、様々な解析が可能です。もちろん、個々の患者さんの管理状況をフォローできますし、自院での治療や生活指導の成果も知ることができます。こうした便利なツールを駆使して、「ヘルシーグルメ ダイエット レストラン」という社会活動をさらに推進していこうと考えています。



スタッフ連携によるデータ入力の流れ

